

掛川市

地形概況

北部は原野谷川や倉真川流域の山地、溜池の多い掛川丘陵地からなり水系密度が高い。低地は原野谷川や逆川にそって発達する。南部の小笠山丘陵には崩壊地、河谷の土石流堆積物も多く、山麓には扇状地が発達し、河川は天井川状に流出する。

地質概況

北部の山地は泥岩・砂岩・泥砂岩互層からなる三倉層である。その南には泥岩や凝灰質泥岩からなる倉真層、泥岩の西郷層、泥砂岩互層の掛川層群とつづく。南部は小笠山礫層からなる小笠山丘陵、泥や細砂の多い曾我層群などからなる。

気象概況

年平均気温は推定 15.0℃で、平坦地と山間地との温度差が大きい。年平均降水量は 2,193mm(下垂)と県平均値よりやや少なく、春から夏季にかけて全降水量の約半分に達する。冬に季節風が連続して吹くことが多い。

災害事例 地震

- 1944年12月7日(昭和19年)東南海地震 M=7.9
県中・西部に被害があった。当地でも掛川で全壊74戸、半壊257戸、大池で全壊4戸、半壊113戸、南郷で全壊11戸、半壊23戸、西南郷で全壊7戸、半壊19戸、曾我で全壊2戸、半壊86戸、桜木で全壊5戸、半壊44戸、和田岡で全壊2戸、半壊11戸、原谷で半壊4戸、原田で半壊1戸、西郷で全壊2戸、半壊7戸、上内田で全壊7戸、半壊4戸、西山口で全壊10戸、半壊103戸、東山口で半壊1戸、粟本では全半壊なしであった。各地の震度は下西郷・掛川中央・小山平で6、上西郷・葛川・城西・上板沢・上内田・原川・大池・各和・下垂木・原谷で5~6、日坂・海老名・伊達方・本所・小原子・菌ヶ谷・水垂・粟本・初馬・長間・石ヶ谷・方の橋・神明・大谷・篠場・徳泉・領家・秋葉通・和田岡・細谷・上垂木で5であった。
- 1854年12月23日(安政元年)安政東海地震 M=8.4
全県下に被害が生じた。当地でも佐夜の中山の茶屋1軒も残らず潰れ、日坂宿では2、3軒潰れた。掛川宿では出火して火災となり、焼失597戸、潰家374戸、死者は58人といわれている。また原川町は焼失24戸、潰家24戸、各和村は焼失4戸、潰家10戸、梅橋村・岡津村はほとんど全壊、領家村は潰家12戸、細田村は潰家56戸、沢田村は潰家19戸、高御所村は潰家1または2戸、長谷村南は8戸残らず潰れ、大池村は潰家91戸、同北側は53戸、新村は4戸潰れ、下又村松原は潰家7戸、上張村は5戸潰れ、仁藤村は小破1戸、道脇村は13戸潰れ、増田村は48戸潰れ、馬喰村は24戸のこらず潰れ、印内村は10戸のこらず潰れ、成滝村は37戸のこらず潰れ、宮脇村は14戸潰れ、菌ヶ谷村は13戸潰れ、池下村は2戸潰れ、午頭村は潰家1戸、千羽村山鼻は26戸潰れ、本所村は4戸潰れ、伊達方村は2戸潰れた。地割れは領家村・高御所村・長谷村南・大池村・菌ヶ谷村・千羽村・伊達方村など

各所に生じた。各地の震度は佐夜中山・原川町・梅橋村・岡津村・細田村・沢田村・大池村・大池村北・道脇村・増田村・馬喰村・印内村・成瀧村・宮脇村・山鼻で7、掛川宿・新村・菌ヶ谷村で6~7、各和村・領家村・長谷村南・下又村上張村・池下村・本所村で6、日坂宿・高御所村・午頭村・伊達方村で5~6、仁藤村・倉真村で5である。

- 1707年10月28日（宝永4年）宝永地震 M=8.4
全県下に被害を生じた。掛川では本丸天主が大破し、二重櫓1個所潰、櫓門2個所が大破した。侍屋敷の全壊114戸、破損124戸、足軽家の全壊38戸、破損37戸、町内の全壊326戸、半壊76戸、負傷者46人の被害があった。日坂の宿でも家々が破損したが、潰家はなく、人馬も無事であった。各地の震度は、掛川で6~7、日坂で6であった。
- 1605（慶長9年）
山内一豊によって改築間もない掛川城が被害を受けた模様。慶長地震か？
- 1498年9月20日（明応7年）明応地震 M=8.2~8.4
大地震であるが古い時代のことで、詳細はわからない。原田で震度6と推定されている。

災害事例 台風

- 1990年9月30日（平成2年）台風20号
台風20号により、県下は30日午前11時頃から激しい雨に見舞われ、西部平野から中部山間部及び天城山を中心に大雨となった。掛川市板沢で裏山の土砂崩れにより死者1人の被害が出た。
- 1982年9月12日（昭和57年）台風18号
県中部を中心に全県下に被害あり、掛川市は下垂木で茶畑が崩れ、2人が死亡した。市の中心部でも、逆川が決壊し、浸水した。市内全域で、死者2人、負傷者11人、全壊5戸、半壊4戸、床上浸水994戸、床下浸水1,441戸の被害がでた。

災害事例 旱魃

- 1893（明治26年）
6月19日より8月10日迄降雨が無かった。水田152町7反のうち35町5反の稲は枯死し。収穫皆無であった。また畑115町2反のうち60町歩の収穫皆無であった。
- 1852（嘉永5年）
子年大日でり、寅年まで3か年つづいた。
- 1771（明和8年）
この年も前年同様の大日でりであった。
- 1770（明和7年）
寅年大日でり旧暦5月27日より9月迄日でりが続いた。

- 1693 (元禄 6 年)

酉の大日でり、旧暦 5 月 17 日より田植をはじめ 6 月 24 日迄植えたが、田植をできなかった田が高山村で 49 石分もあった。